

農技セ第5520号
令和2年10月14日

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和2年度農作物病虫害発生予察情報について

令和2年度農作物病虫害発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

令和2年度農作物病虫害発生予察特殊報第2号

令和2年10月14日
徳 島 県

1 病虫害名 : ヨツモンカメノコハムシ
学名 : *Lacoptera quadrimaculata* (Thunberg)

2 作物名 : サツマイモ (かんしょ)

3 発生地域 : 県東部, 県南部

4 発生概況

本年9月18日, 名西郡石井町のサツマイモ圃場においてサツマイモの葉を加害するハムシ類の成虫が確認されたため, 採集した個体を農林水産省神戸植物防疫所へ同定を依頼した結果, 大阪府等でサツマイモへの加害報告があるヨツモンカメノコハムシであると同定された。

その後, 県内全域で調査したところ, 県東部, 南部の数地点のサツマイモ圃場で発生が認められ, 周辺のノアサガオにも寄生していることを確認した。

なお, サツマイモ主要産地である県北東部では確認されていない。

5 形態

(1) 成虫は扁平なだ円形で, 体長 7.5~9 mm と大型である。体の中央部はやや艶のある茶褐色, 周縁部は半透明の黄褐色である。鞘翅の前方と後方の縁に合わせて4つの黒褐色の大型斑紋がある (図1)。

(2) 幼虫は扁平な紡錘形で, 周囲体側にトゲ (樹枝) 状突起を有し, 背面に脱皮殻や糞を背負う (図2)。

6 生態及び分布

成虫出現期は4~11月。長崎県では成虫態で越冬して5月頃から産卵を開始し, ふ化した幼

虫は7月以降に蛹化～羽化すると推定されている。

本種は主に沖縄本島以南に分布しているが、平成11年に長崎県で確認されて以降、西日本を中心とする各地で確認されており、四国では平成27年に愛媛県で、平成28年に高知県で確認されている。

海外では中国南部、台湾、インドネシア、ミャンマー、インドに分布している。

7 被害

成虫、幼虫ともに植物の葉を食害し、直径数 mm ～10mm の不定形の穴を点々と開ける（図1）。卵から成虫まで葉上で生活するため、土中のイモへの直接的な被害はない。

本種はサツマイモを始め、ノアサガオ、アサガオ、ヒルガオ等のヒルガオ科植物を食草とする。

8 防除対策

(1) ほ場を巡回し早期発見に努め、発生が多い場合は薬剤防除を行う（表1）。

(2) ほ場周辺のヒルガオ科の雑草を除去し、発生源を減少させる。



図1 サツマイモの葉を加害する
ヨツモンカメノコハムシの成虫



図2 サツマイモの葉を加害する
ヨツモンカメノコハムシの幼虫

表1 ヨツモンカメノコハムシに登録のある農薬（令和2年10月8日現在）

作物名	農薬名称 (商品名)	使用時期	希釈倍数	使用方法	本剤の 使用回数	RAC コード
かんしょ	スミチオン乳剤	収穫7日前まで	1000倍	散布	5回以内	1B
	コテツフロアブル	収穫前日まで	2000～4000倍	散布	2回以内	13
	アクセルフロアブル	収穫前日まで	10～16倍	無人航空機による散布	3回以内	22B
		収穫前日まで	1000～2000倍	散布	3回以内	
	ベネビアOD	収穫7日前まで	4000倍	散布	3回以内	28